



第488号 平成31年3月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

## 第67回近医連学校医研究協議会総会

常任理事 大久保 秀 夫

2月24日(日) ホテル日航奈良において第67回近医連学校医研究協議会総会が行われました。日本医師会会長(名代として道永常任理事)、奈良県吉田教育長の祝辞、会務報告のあと午前は2府4県から各1題の研究報告が行われました。

一題目は和歌山県から学童の成長に及ぼす家庭内喫煙の影響と防煙教育についての演題で、両親の家庭内喫煙が児の発育に与える影響や、医師が学校に出向いて行う年齢に応じた独自の防煙教育の成果等をもとに、家庭内喫煙防止と学童期からの防煙教育の重要性が報告されました。

二題目は京都市から「海外からの年度途中転入者に対する結核検診について—京都市の取り組み—」と題して私が発表の機会をいただきました。近年外国出生者の結核罹患が問題となっており、厚労省の資料によると、平成29年度では小中学生にほぼ対応する5歳から14歳の新規結核登録患者28人中10人35.7%が外国での出生者でした。このような状況下、京都市では結核高まん延国からの帰国あるいは入国による転入児童・生徒数は年々増加しています。京都市では従来、年度途中で海外から転入してきた児童・生徒の結核検診も他の児童・生徒と同じく翌年度初めの定期結核健康診断で対応してきましたが、年度途中で転入してきた児童・生徒に対しては検診までに大きなタイムラグが生じる可能性がありました。この問題に対応するため、平成29年度からは年度途中の海外からの転入者を対象とし転入時に問診票による検診を随時行い対象者には秋に精密検査を実施するよう改め一定の効果を上げることができています。しかし海外からの転入は時期を問わず発生し、またその数が増加している状況を考えると、年二回の精密検査機会では十分とは言えず、今後は転

入時の速やかな精密検査の実施への移行とその方法について検討を進めていきたいと報告いたしました。

三題目の大阪府からの「学校心臓検診の実態と突然死・心肺蘇生に関する調査報告」と、四題目の兵庫県からの「姫路市における運動器検診の結果と問題点について」に関しては、林会長から別稿にて報告の予定です。

五題目は滋賀県の小中学校の結核検診におけるIGRA検査の導入に関する演題で、守山市で2008年度から行っているIGRA+胸部X線を用いた精密検査について報告されました。滋賀県内では2016年度以降、米原市や長浜市、近江八幡市でも精密検査にIGRAを導入しているとのことで、今後の京都における結核検診の方法についての参考になると思われました。

午前の最後は奈良県で作成した「乳幼児食物アレルギー問診票兼指示書」についての演題でした。これは厚労省の「保育所における生活管理指導票」の食物アレルギーの部分的大幅に改定して具体的に理解しやすく記入できる問診票と指示書にしたものです。学童用の食物アレルギー問診票も同様に改定され、共に奈良県医師会のホームページ上で参照することができます。

昼食・理事会を挟み、午後は奈良県立医大教授の飯田順三先生から「発達障害の理解と支援」と題して講演が行われました。発達障害につき体系的にわかりやすく解説していただき、特に自閉スペクトラム症とADHDについてその病態と発達障害児の特性を理解した上での支援について言及されました。

久しぶりの暖かい日差しの中、若草山を散策する余裕がなかったのは残念でしたが充実した一日を過ごすことができました。

来年度は和歌山県医師会が担当します。

## 第33回京都市小学校「大文字駅伝」大会

養正小学校医 上原 春 男

2月10日（日）、市内各支部の予選を勝ち抜いた代表と、国私立・民族学校の代表48チームが出場した第33回京都市小学校「大文字駅伝」大会が開催されました。出場選手達は寒さにも負けずに力走、スタートの衣笠小出発、ゴールの岡崎公園野球場までの8区間12.385kmを全48校が無事たすきをつなぎ、大きな事故もなく大会は無事終了しました。レース終盤のゴール手前では、川岡小（西京区）と修学院（左京区）が大接戦の優勝争いを演じ、43分2秒の同タイムでゴール、着差の判定で川岡小が31年ぶり3度目の優勝を果たし、2位修学院小、3位松陽小（西京区）4位砂川小（伏見区）、5位松尾小（西京区）という結果でした。

大会当日の私の役割は最も寒いと予想される府立植物園横の鴨川河川敷第4中継所の救護所での待機でありましたので、しっかりと防寒対策をし小雪が舞うなか集合場所の京都市勤業館みやこめっせへ。午前8時に到着。大会運営上あるいは救護班としての役割・注意事項の説明を受け、第5区走者の選手達と共にバスで第4中継所へ移動。到着後、中継所・救護所での救護体制の準備等を行い、第4区走者の到着を待ちました。この日は、晴れたり曇ったり、時折小雪が舞うという天候で、晴れ間は比較的暖かでしたが、曇ったり、風が吹くと急に気温が下がり寒くなるという一日でした。私自身は防寒対策が十分出来ていたことによるものか、寒さに震え上がることもなく、職務を遂行できました。

本大会に限らず駅伝運営で大変重要な事項の一つが中継所でのスムーズなたすきリレーが行われるよう対応することです。中継所では次々に選手達が激走して飛び込んで参ります。時には何人ものランナーが重なり合っただけで中継所に入ってきます。そのような混雑のなか、それぞれのランナーがスムーズにたすきリレーができるよう担当役員の方は全選手の中継が終了するまで気を抜くことなく緊張感が続きます。第4中継所でも激走してきた選手達が次々と到着、河川敷での狭い中継所は選手でごった返しましたが、大会役員さんの見事な対応で中継はスムーズに行な

われ、第4区の走者は全員無事に第5区のランナーにたすきをつなぎ、第5区の選手たちは元気に走り出してゆきました。第4区の選手達は全員限界までの力で激走し、中継所に飛び込んできており、中には倒れ込む児童もいましたが、選手達に大きな医療的事故も無く経過し無事救護所での役割を終えることができました。その後第4区の走者全員と共に閉会式が行われるみやこめっせへバスで移動、移動中に本大会終盤の優勝争いがあり残念ながら2校の大接戦は見ることは出来ませんでした。

本駅伝大会も会を重ねるにつれ、選手関係者や友人等の応援が増え、京都の冬の風物詩の一つといわれる大会となってきております。応援団が多くなり大会が華やかになってきていることは決して悪いことではなく喜ばしいことであると思いますが、それ故の問題も出てきております。第4中継所にも多くの応援団がつめかけておりましたが、大会関係者席やコースへの出入りが一般の方にも自由にできることから、大会運営関係者と一般応援団の人々との区別がつかない上、選手の両親や友人が選手へ話しかけ、大会指導者等の注意を全く聞いていない選手も出てくるといった事態も発生しており、このようなことへの対応策の検討が必要ではないかと思えました。

本大会が企画された昭和63年頃には、公道での競走は交通事情に大きな影響をきたすため、京都府警の許可が得られなかったのですが、その後コースの多くを河川敷を使用することで京都府警の許可を得、大会が開催されることとなったと聞いております。大会前心臓検診、整形外科検診の実施、救護所への会員医師の派遣等、大会の運営に当たり医療面を京都市学校医会が中心となって本大会運営に協力・支援を行ってきたことはご存じのとおりです。大会開催に関しては京都市学校医会100周年記念誌に福田潤先生が「第一回京都市小学校「大文字駅伝大会」への支援について、歴史に関しては奥田正治先生が平成28年京都市学校医会誌に「京都市小学校「大文字駅伝」大会」～30年を振り返って～を投稿してお

られます。ご参照下さい。

私は第一回大会から医療班として何度か出務しております。33年も前のことですので記憶が薄れている部分もありますが、大文字駅伝は私にとって懐かしい行事でもあります。33年間にコースの変更も何度かありました。スタート地点は仏教大から衣笠小学校へ、折り返し地点も当初志久呂橋でしたが、その後北山通りから狐坂を上がり宝ヶ池国際会館駅に、現在は北山通りノートルダム小に、ゴールは二条河川敷から現在の岡崎公園運動場へと変化しています。それぞれの大会を部分的にしか思い出せませんが、寒い河川敷中継点での待機、中継所での選手達と一緒に準備体操等それぞれに懐かしい思い出があります。大会前心臓検診にも出務しておりますが、予診票に2 kmから4 kmのランニングを週4日から6

日行っていると記載している生徒が多く、各学校が大会に熱心に取り組まれている現状がこのことからわかります。

本大会も年を重ねるごとに華やかとなってきており、今や京都市の一大イベントとなってきております。大会規模が大きくなっていくことは大会当初から応援してきた私にとって大変喜ばしいことではありますが、大会成功の裏には学校関係者のみでなく、大会運営に多くの職種の方や多くのボランティアの方々のご協力があるのと思います。医療面からどのようなサポート体制を構築し実行するかを検討し本大会を支えてこられた学校医会の歴代の会長はじめ執行部の先生方、実務につかれる会員の先生方に敬意を表するとともに今後とも本大会の益々の発展を祈念しております。

---

---

## 第49回全国学校保健・学校医大会 第4分科会

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木 由一

- 1 学齢期小児の耳鼻咽喉科疾患について  
—地域中核病院における一般耳鼻咽喉科での疾患統計の検討と学校生活への影響—  
大阪府医師会 西村 洋
- 2 難聴学級新設となった学習困難の難聴児症例について  
神奈川県医師会 寺崎 雅子
- 3 川崎市における耳鼻咽喉科学校保健活動の現状  
—学校医のアンケート結果より—  
神奈川県医師会 吉川 琢磨
- 4 新潟県における健康教育に関する二つの実践  
新潟県医師会 大滝 一
- 5 学校でのアレルギー性鼻炎症状と生活管理指導表について  
—患児と保護者へのアンケート調査結果—  
鹿児島県医師会 松永 信也
- 6 耳鼻咽喉科学校健診における言語異常検診の重要性  
徳島県医師会 島田 亜紀
- 7 静岡県就学時言語検診後のアンケート調査結果について  
静岡県医師会 足立 昌彦
- 8 「就学時の健康診断マニュアル」改訂について  
東京都医師会 大島 清史

平成30年度 第49回全国学校保健・学校医大会が日本医師会主催、鹿児島県医師会担当で平成30年10月27日(土)に城山ホテル鹿児島にて開催されましたので報告します。

私は第4分科会、耳鼻咽喉科に出席してきました。座長は森山一郎鹿児島県耳鼻咽喉科医会会長、伊東一則鹿児島県耳鼻咽喉科医会 学校保健担当理事により講演がすすめられました。

各演題は左記のとおりです。抄録をご希望の方は京都市学校医会事務局に置いてありますのでお目直し下さい。

演題8の東京都医師会、日耳鼻学校保健委員会委員長の大島 清史先生の講演の「就学時の健康診断マニュアル」改訂については耳鼻科に関しては、その中で発達障害との関連を示し障害者支援に寄与する点が挙げられている。また、日耳鼻発行の健康診断や音声言語検診マニュアルを紹介し、耳鼻咽喉科の健康診断のみならず発達障害への取り組みを示している。耳鼻咽喉科学校医は、発達障害に関与する意識を持ち検診を行うことが望まれる。との要旨であった。

## 第10回 常任理事会

平成31年3月2日  
於：事務局

**出席者** 林会長，井本・杉本副会長，山内専務理事，東道・大久保・川勝・中嶋各常任理事，佐野眼科学校医会副会長，鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事，奥村議長，長村監事

### ・会長挨拶

#### <報告事項>

1. 色覚相談 2/5, 2/12, 2/19, 2/26 各2名
2. 第33回京都市小学校「大文字駅伝」大会  
2/10 大きな怪我なし
3. 精神衛生研究会 2/14
4. 京都市中学校秋季総合体育大会  
ラグビーフットボール種目 於：宝ヶ池球技場  
2/16 奥村先生 2/23 竹中先生  
頭部打撲1例ずつ 問題はなし
5. 第67回近畿医師会連合学校医研究協議会  
2/24 於：ホテル日航奈良  
大久保先生：海外からの年度途中転入者に対する結核検診について発表  
発達症の話：どのように対処するか オキシントシンの点鼻が効果があるかも
6. その他 健診を上半身裸ですることが府下では統一できていない 中学では着衣でしている所が多い  
学校の統廃合による校医の移動

#### <協議事項>

1. 平成31年度京都市学校保健会役員選出について
2. 三師会・懇談会日程について  
昨年と近い日程の辺りで 養護教育研究会との懇談会は7月で
3. 会誌原稿について  
5月末が締め切り 9月～10月には発行予定
4. その他 総会資料 決算報告書 予算案について

#### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 3/5, 3/12, 3/26
2. 第2回思春期保健対策ネットワーク会議 3/7  
於：職員会館かもがわ
3. 平成30年度若者の薬物問題について考える講演会  
3/8 於：ウイングス京都
4. 東山支部会 3/10
5. 精神衛生研究会 3/14
6. 第35回子どものこころと身体懇話会 3/16  
於：京都第二赤十字病院
7. 平成30年度日医学校保健講習会 3/17  
於：日本医師会館
8. 京都市学校医会 新任校医研修会 3/28  
於：こどもみらい館
9. 京都府医師会 新任学校医研修会 3/30  
於：京都府医師会館
10. 第11回常任理事会 4/6
11. その他

### 平成31年 京都市学校医会総会 ご案内

- ◎ 期 日 平成31年4月20日(土)
- ◎ 場 所 **木乃婦** (下京区新町通仏光寺下ル岩戸山町416) TEL 352-0001
1. 総 会 午後4時より
  2. 講演会 午後5時より  
講師 細辻 博之 様 (福島鯉株式会社 総務部長, 国際事業部長兼任)  
演題 『世界に広がるDashiとUmami』
  3. 懇親会 午後6時より 会費 10,000円